

第38回
福島県児童・生徒木工工作コンクール
表彰式

◇とき 平成25年12月7日(土) 午後2時

◇ところ クリナップ井上記念体育館
「ふくしまみんなの住宅フェア」会場

福島県木材青壮年協会

式次第

表彰式

1. 開 会
2. 挨拶
3. 来賓紹介
4. 講 評
5. 表 彰
6. 祝 辞
7. 閉 会

記念撮影

出席者名簿 (敬称略)

ご 来 賓

福島大学人間発達文化学類教授	新 井 浩	(あらい ひろし)
福島県農林水産部林業振興課長	松 房 政 彦	(まつふさ まさひこ)
関東森林管理局磐城森林管理署長	笹 岡 哲 也	(ささおか てつや)
福島県木材協同組合連合会専務理事	宗 形 芳 明	(むなかた よしあき)

主 催 者

福島県木材青壮年協会長	志 賀 一 成	(しが かずなり)
-------------	---------	-----------

受 賞 者

福島県知事賞	第1部	石 井 颯 季	(いしい そうき)
〃	第2部	佐 藤 琉 凱	(さとう りゅうが)
福島県教育委員会教育長賞	第1部	沼 田 駿	(ぬまた しゅん)
〃	第2部	枡 本 鼓 平	(ますもと こうへい)
〃	〃	枡 本 はるか	(ますもと はるか)
関東森林管理局長賞		蒲 生 雄 太	(がもう ゆうた)
福島民報社長賞		坂 田 歩 夢	(さかた あゆむ)
財団法人福島県林業会館理事長賞		布 田 杏 菜	(ふだ あんな)
福島県木材協同組合連合会長賞		高 野 瞳 子	(たかの とうこ)
NHK 福島放送局長賞		和 田 ほのか	(わだ ほのか)
福島県木材青壮年協会	第2部	鈴 木 拓 真	(すずき たくま)

開催の趣旨

目 的

再生可能な循環型資源として広く知られている木材は、地球温暖化防止に極めて有効な二酸化炭素の固定の手段としても注目を浴びています。このように優れた特性を持つ木材を実際に自分で切ったり、削ったり、組み合わせながら、香り・色・肌触り等の木の持つ良さを実感することで、未来を担う子どもたちの感受性を豊かにするお手伝いをしながら木材の利用推進を図ります。

主 催 等

- ◇ 主 催 ◇ 福島県木材青壮年協会・福島民報社・福島県木材協同組合連合会
- ◇ 後 援 ◇ 福島県・福島県教育委員会・関東森林管理局・(財)福島県林業会館
NHK福島放送局・ラジオ福島・福島テレビ

応募資格

- (1) 福島県内の小中学校の児童・生徒であること。
- (2) 木材及び林産物を主材料として利用・加工した創作品で、作品の大きさは一辺の大きさが75 cmを越えないもの。

審査基準

- | | 配点 (100点) |
|----------------------------|-----------|
| (1) 子どもの頭で考え、子どもの手で作ったもの。 | 30点 |
| (2) 木の持ち味を活かし、独創性に優れていること。 | 30点 |
| (3) 機能、デザインが優秀であること。 | 20点 |
| (4) 工作技術が優秀であること。 | 20点 |

経過説明

審査内容

1. 出展作品数 総数 827点 (34校)
さらに、各支部の予選審査により 35点 が最終審査に出展された。
2. 審査会 平成 25年 10月 25日 郡山市において次の審査委員により「入賞者名簿」のとおり各賞が決定された。

◇審査委員長◇

福島大学人間発達文化学類教授

(敬称略)

新井 浩

◇審査委員◇

関東森林管理局福島森林管理署長

富永 茂

福島県林業振興課主任主査

木村憲一郎

福島県教育長学習指導課指導主事

大石 正文

福島民報郡山本社総括本部長

中尾 富安

ラジオ福島郡山支社長

松本 良市

福島県木材協同組合連合会副会長

小松 昭人

福島県木材青壮年協会会長

志賀 一成



その他

3. 全国コンクールへの参加

上位入賞作品については、平成 26年 3月 2日開催の全国コンクールに出展し、さらに入賞した作品については、6月 14日宮崎県で開催される日本木材青壮年団体連合会全国会員大会会場において表彰される。

4. 作品の展示及び展示期間

(1)平成 25年 11月 23日 (土) ~ 11月 24日 (日)

於：福島県青少年会館「ふくしまみんなの住宅フェア」会場

(2)平成 25年 12月 7日 (土) ~ 12月 8日 (日)

於：クリナップ井上記念体育館「ふくしまみんなの住宅フェア」会場

(3)その他地域イベント会場等

講 評

第38回福島県児童・生徒木工工作コンクール審査委員長
福島大学人間発達文化学類教授
新 井 浩

第38回福島県児童生徒木工工作コンクールの審査は、10月25日、福島県林業研究センターで行われました。その感想と講評をおこないます。

会場に入ると、大きな作品から工夫を凝らした作品まで、たくさん並んでいました。作品からは強い熱気や楽しんでつくりました、という感じがすぐに伝わってきて、審査をすることが待ち遠しくなる程でした。審査基準の確認をおこなって、審査員全員で意見を出し合って受賞作品を決めていきました。

第1部の最優秀賞に選ばれた石井颯季君の〈とりのランプシェード〉は、木っ端を環状に積み重ねて大きな鳥をつくり、中に照明を仕込んだものです。木の温かさや照明の暖かさや発想、技術、形態の素朴さが合わさって、独創的な素晴らしい作品になりました。

第2部の最優秀賞に選ばれた佐藤琉凱君の〈シャーク〉は、かたちを組んで、おがくずや木っ端を貼付けたものです。大きな作品で意気込みが伝わってきます。動きや工夫があって新鮮な驚きのある作品になりました。

続いて優秀賞に選ばれた各作品について講評します。

沼田 駿君の〈トンボの親子〉は、トンボが並んで飛んでいる様子をつくったものです。木の枝やマツボックリなどを利用して質感豊かにつくっています。木の枝を上手く利用して、斜めに構成したところが、動きが出て良かったと感じました。

枡本鼓平君、枡本はるかさんの〈親子の絆〉はワシやタカでしょうか。巣で餌を待つヒナと親鳥の交流を表現しています。樹の皮や木の葉で羽毛を表現して、上手にできています。

蒲生雄太君の〈ウッドローズ〉はカンナクズでバラを表現した作品です。工芸の技法でよく見ることがありますが、丁寧につくっています。カンナクズでびっくりするような作品になることが分かったと思います。カンナクズを使うこうした技法を応用したら、次に造る作品がとても楽しみです。

坂田歩夢君の〈空とぶりゅう〉は一本の枝にマツボックリと松葉を付けて龍に見立てた作品です。単純ですが存在感があり、雲をカンナクズでつくって支柱を見えなくするなどの工夫があります。斜めに動きを出した点も良かったと思います。

布田杏菜さんの「まっくろくろすけ」のすてきなおうち>はツルで編んだすてきなおうちでした。ツルの編み方に動きがある作品でした。まっくろくろすけも気持ち良さそうでした。

高野瞳子さんの「夢の遊び場」は大木から枝分かれする部分を輪切りにし、それを遊び場として様々な遊び道具を加えたものです。こんな場所にこんな遊び道具があればいいなあ、という夢の詰まった遊び場でした。大木に包まれる安心感が感じられて、造形的な良さもありました。

和田ほのかさんの「夢のドングリパーク」はかわいいドングリたちが遊ぶ公園でした。細かなところへの心配りがあり、夢がぎっしりと詰まったすてきな公園でした。

丹治瑠音さんの「夢のツリーハウス」は枝でがっしりとつくった作品でした。枝をたくさん寄せて造るという面白みが分かったと思いますので、次にはいろいろな作り方を試せるといいですね。賞はその励みになると思います。

折内康太郎君の「マンボウ」は3匹のマンボウがサンダーで削り出され、海の様子がカンナくずで表された作品です。マンボウの質感と木の質感が上手く合って、良い作品でした。また量感もあり、いかにも木彫という作品でした。

米倉明志君の「ゴーイングサニー号」は流木と年輪を上手く組み合わせて、乗り物のような、生き物のような、いろいろな見えてくる作品でした。流木の古く風化した感じ、その選び方、組み合わせ方がたいへんよかったですと思います。

鈴木拓真君の「エビフライとトンカツキャベツのセット」はたいへんユニークな思いつきの作品でした。また、それを実現させる手だても上手く考えられ、技術的な部分も万全でした。入れ物まで造ればさらによかったという惜しい作品でした。

全体の講評にうつります。このコンクールは子どもたちが木と親しみ、何かを作りたくなること、そして自由につくれる環境を整えてあげられること、が何より大切だと思っています。

その中では子どもたちの成長に欠かせない、思いつく力や順番を考える力、うまくいかないことがあったら、回り道してもそれを工夫して実現する力が養われます。

普通はそれをコツと呼びます。コツは教えられるものではなく、体得するしかありません。しかし現在ではコツを軽視し、頭でっかちで、文句ばかりの大人が増えています。コツは他のものに応用できます。そしてその力は人を幸福に近づけてくれます。工作や美術の力を修めた人は幸福感が高いという調査がある程です。大人もそんな子どもたちを見守りながら、人間と創作活動、人間と木の文化の関係について考えていただく事が大切です。

子どもたちが自分の力で考え、自分の手で造った作品をたくさん見たいと思っています。また来年も、たくさん子どもたちが、この木工工作コンクールに応募してくれることを願っています。

入賞者名簿

(敬称略)

最優秀賞

福島県知事賞 1部

とりのランプシェード

福島県知事賞 2部

シャーク

優秀賞

福島県教育委員会教育長賞1部

トンボの親子

福島県教育委員会教育長賞2部

親子の絆

//

関東森林管理局長賞

ウッドローズ

福島民報社長賞

空とぶりゅう

(財)福島県林業会館理事長賞

「まっくろすけ」のすてきな
おうち

福島県木材協同組合連合会長賞

夢の遊び場

NHK福島放送局長賞

ゆめのどんぐりパーク

ラジオ福島社長賞

ゆめのツリーハウス

福島テレビ社長賞

マンボウ

福島県木材青壮年協会長賞1部

ゴーイングサニー号

福島県木材青壮年協会長賞2部

エビフライとトンカツキャベ
ツのセット

入選

福島県木材青壮年協会長賞

さんかくやねのぶらんこの

あるいえ

森の妖精

森のたからばこ

電話のちょきん箱

富士山貯金箱

からくり遊園地

いわき市立平第四小学校 3年

いわき市立小名浜第三小学校 5年

いわき市立平第一小学校 4年

いわき市立中央台東小学校 6年

いわき市立中央台東小学校 3年

いわき市立好間第一小学校 6年

いわき市立小名浜第二小学校 3年

いわき市立平第五小学校 4年

いわき市立勿来第一小学校 4年

いわき市立中央台東小学校 3年

いわき市立勿来第一小学校 2年

いわき市立郷ヶ丘小学校 2年

郡山市立薫小学校 4年

いわき市立沢渡小学校 6年

福島市立庭坂小学校 1年

福島市立庭坂小学校 6年

福島市立野田小学校 2年

福島市立野田小学校 4年

郡山市立喜久田小学校 4年

いわき市立大野第二小学校 6年

いし い そう き
石 井 颯 季

さ と う り ゆ う が
佐 藤 琉 凱

ぬ ま た し ゅ ん
沼 田 駿

ま す も と こ う へい
栞 本 鼓 平

ま す も と は る か
栞 本 はるか

が も う ゆ う た
蒲 生 雄 太

さ か た あ ゆ む
坂 田 歩 夢

ふ だ あ ん な
布 田 杏 菜

た か の と う こ
高 野 瞳 子

わ だ ほ の か
和 田 ほのか

た ん し る ね
丹 治 瑠 音

お り う ち こ う た ろ う
折 内 康 太 郎

よ ね く ら は る む ね
米 倉 明 志

す ず き た く ま
鈴 木 拓 真

わ た な べ と あ
渡 部 と あ

の だ と も ひ ろ
野 田 智 大
い わ ぐ め 琉
岩 城 愛 琥
た ん じ は く 伯
丹 治 藤 は の り
さ とう よ し 則
す ず き ま れ 董

☆☆☆第38回福島県児童・生徒木工工作コンクール入賞作品☆☆☆

(敬称略)

最優秀賞

福島県知事賞



「 とりのランプシェード 」
いわき市立平第四小学校
3年 石井 颯 季



「 シャーク 」
いわき市立小名浜第三小学校
5年 佐藤 琉 凱

優秀賞

福島県教育委員会教育長賞

関東森林管理局長賞



「 トンボの親子 」
いわき市立平第一小学校
4年 沼田 駿



「 親子の絆 」
いわき市立中央台東小学校
6年 柘本 鼓 平
3年 柘本 はるか



「 ウッドローズ 」
いわき市立好間第一小学校
6年 蒲生 雄 太

福島民報社長賞

(財)県林業会館理事長賞

福島県木連会長賞



「 空とぶりゅう 」
いわき市立小名浜第二小学校
3年 坂田 歩 夢



「まっくろすけ」のすてきなおうち
いわき市立平第五小学校
4年 布田 杏 菜



「 夢の遊び場 」
いわき市立勿来第一小学校
4年 高野 瞳 子

NHK福島放送局長賞



「ゆめのどんぐりパーク」
いわき市立中央台東小学校
3年 和田 ほのか

ラジオ福島社長賞



「ゆめのツリーハウス」
いわき市立勿来第一小学校
2年 丹治 瑠音

福島テレビ社長賞



「マンボウ」
いわき市立郷ヶ丘小学校
2年 折内 康太郎

福島県木材青壮年協会長賞



「ゴーイングサニー号」
郡山市立薫小学校
4年 米倉 明志



「エビフライとトンカツキャベツのセット」
いわき市立沢渡小学校
6年 鈴木 拓真

